

活動を支える人材の発掘と育成

市民協働研究会委員 早瀬裕子

「やりたいことはあるのだけれど決めかねている・・・」団塊の世代の人たち、主婦、会社員、学生、定年後の人たちなど・・・何か社会に役立つ事をしたいと思っている人は多くいます。これらの人たちは、自分の思いを形にするきっかけに合った時、素晴らしい地域活動の担い手として活動できると考えます。

(1) 実際に活動する中で人材の発掘を

どんな活動でも、誰もが初心者であり、活動に関する知識や技能を持っていないのが普通です。実際に関わっているうちに自分にあったものを見つけていくのです。

最近江南市でも、定住する外国人が増え続けています。彼らの一番の悩みは子どもの教育です。親は母国語、子は日本語ではコミュニケーションがとれません。外国籍の児童の放課後支援としてボランティアを募集しました。教師経験のある人、主婦・会社退職者など子育て経験のある人、勉強最中の学生、同年代の子どもを持つ外国人などが集まってくれました。自然な形で役割が決まります。子どもの好きな人は指導者に、料理の得意な人はおやつ係りに、運転の得意な人は送迎員に、子育て経験者は相談員に、機械に強い人はパソコン指導者にと適材適所にと活動しています。そのように活動の中にこそ人材発掘ができるのです。ただし、経験のある人材サポート役が必要です。

(2) 研修をチャンスに人材の育成を

どれだけ経験をつんだ人でも場にあった研修は大切です。

ボランティアとして活動してみたい人を対象にワークショップを開きました。

「もしも、世界が100人の村だったら」では、実際の体験を通してボランティアのあり方を考えました。

実際に日本語指導をしている人や、これから日本語教師を目指している人、子どもの放課後支援をしている人を対象に専門講師を招いて勉強会を開いています。

次世代に活躍する小・中学生にも訪問研修チャンスをつくります。学校の総合学習で「ふくらの家」を訪問したり、外国人と交流したり、学校に出前授業もしています。

実際に活動している人や、大学の先生などの話を聞く会も予定しています。研修に参加した人が、自分の思いを形に出来るチャンスになってくれればと願っています。

(3) 情報の発信による人材の定着を

常時使うことができる拠点「ふくらの家」にスタッフが常駐できるようになりました。

必要な情報がタイミングよく発信・提供できれば、息の長い活動ができると考えます。

今、何が最も必要なのかを市役所に相談し、学校や企業に働きかけ、各市民団体の協力により進めています。活動は人に支えられ、運営する人によって発展します。今後、市民団体とのネットワークを広げ、将来を担い、地域を担う人たちが、自分の思いを形にできる人づくりに取り組んでいきたいと思えます。